

平成30年度 文部科学省委託事業

～障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究～

社会（地域・福祉・企業の連携システム）が支える、

学校教育終了後から生涯にわたる継続的な学びの実践研究事業

～コミュニケーション経験を基盤とする生活・就労支援プログラムの構築～



学校卒業後における障害者の学びの推進に関する
有識者会議（第9回）報告資料



NPO法人
障がい児・者の
学びを保障する会

平成30年9月18日10:00-12:00
文部科学省東館15階特別会議室

当会による研究事業の概要

社会（地域・福祉・企業の連携システム）が支える、 学校教育終了後から生涯にわたる継続的な学びの実践研究事業 ～コミュニケーション経験を基盤とする生活・就労支援プログラムの構築～

事業にいたる背景 ～「ままのがっこ」で実施した諸調査・進路勉強会から見えてきたもの～

1. 就労にかかるライフスキル（学校教育と社会のギャップ）

学校教育より提供 → ・実習等による直接的なスキルアップ

企業・保護者のニーズ → ・広い視野で捉えた就労・生活に必要な力の習得

※生活面での課題が就労継続の妨げになっているケースも

○対人関係 ○金銭管理 ○性に関する課題など

・就労の意義の理解や就労意欲の育成

2. コミュニケーション

・知的障がい者の限定的な生活環境によるコミュニケーション力向上の機会の不足

・地域の受容性・寛容さを育む機会の不足

3. 権利保障

・知的障がい者の高等部卒業後の多様な進路選択（進学の場合）

・学校教育終了後の生涯にわたる学びの機会

当会による研究事業の概要

社会（地域・福祉・企業の連携システム）が支える、
学校教育終了後から生涯にわたる継続的な学びの実践研究事業
～コミュニケーション経験を基盤とする生活・就労支援プログラムの構築～

プログラム開発の目的

1. 自立した生活を目標とした就労（又は就労を見据えた）に向けて、直接的・間接的に必要なライフスキルを培う
2. 一部の講座に一般参加者を受け入れたり、コミュニティスペース事業とも連動し、他者との偶発的な出会いによる当事者及び地域住民の相互のコミュニケーション力を育む

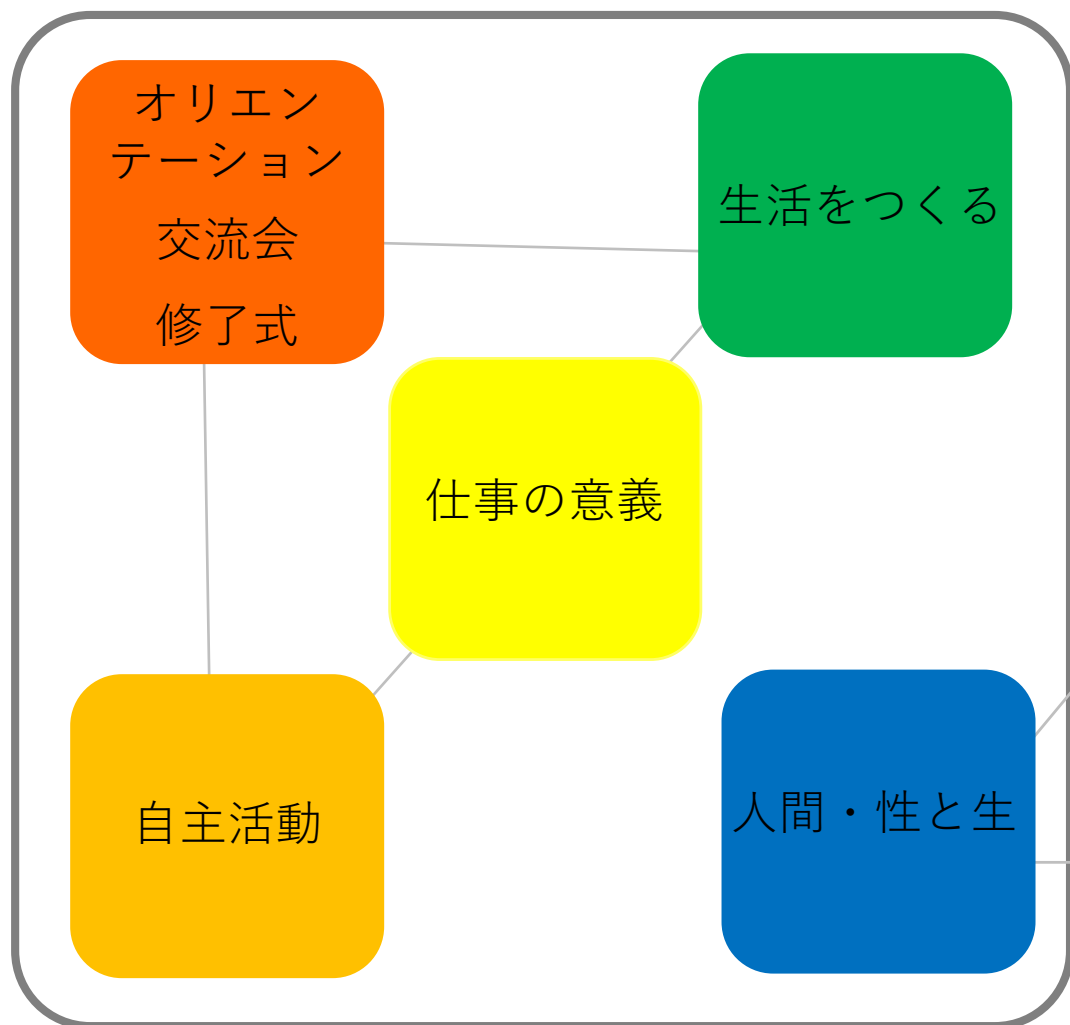
ポイント

- ・ コミュニケーションを核にした内容の構築
- ・ 実験的な環境づくり
- ・ 当事者ベースでの検討

10テーマによるプログラムと実施スタイル

CLOSED講座

知的障がいのある高等部生～社会人を対象

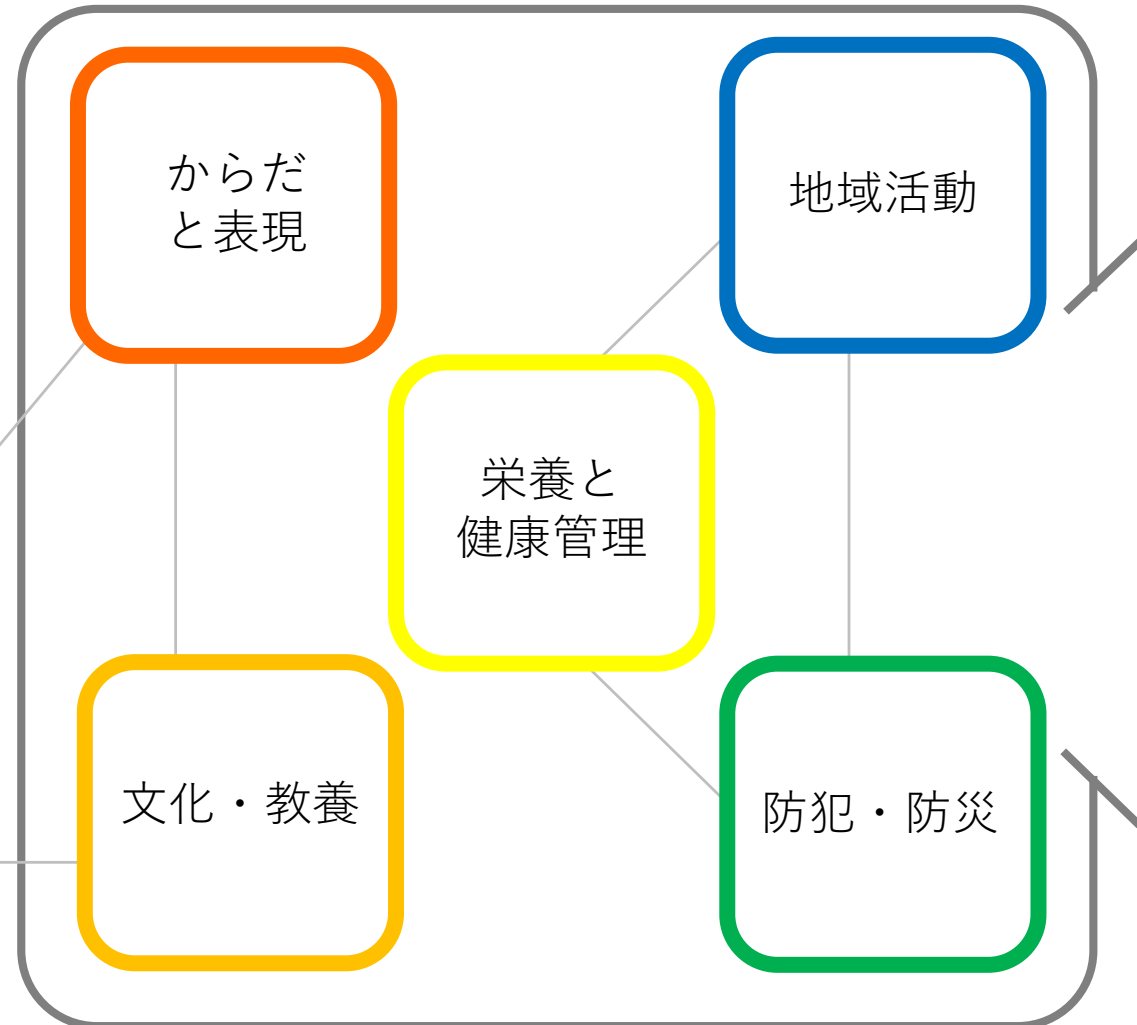


スタッフのみ



OPEN講座

どなたでも対象



外部講師を招聘



練馬区の既存学習講座を活用



プログラムの実施スケジュール



オリエンテーション



生活をつくる
①②③



仕事の意義
①

CLOSED講座

オリエンテーション

生活をつくる
①②③

仕事の意義
①②③

自主活動
①②③④

交流会

人間・性と生
①②③

修了式

OPEN講座

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

ゆるゆる体操



からだ
と表現

地域活動

栄養と
健康管理

文化
教養

選挙に行くって
そういうことか!



栄養と
健康管理

防犯
防災

科学実験
教室



からだ
と表現

だれでもいつでも
「ちゃんとごはん」

文化
教養

地域活動
①②

災害から守れ!
大切な命!



I-LDK事業との連動

What's I-LDK?

地域で暮らす人々の居場所であり、いろいろな人の出会いの中で、自分の世界を広げていく場所。
※練馬区との協働プロジェクト

I-LDK事業

(11月頃OPEN予定)

●ワークショップの実施

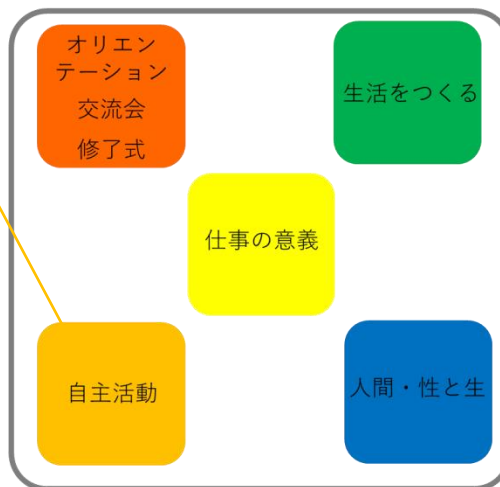
とくいの銀行



● 地域に開かれた
コミュニティスペース
の運営

CLOSED講座

知的障がいのある高等部生～社会人を対象

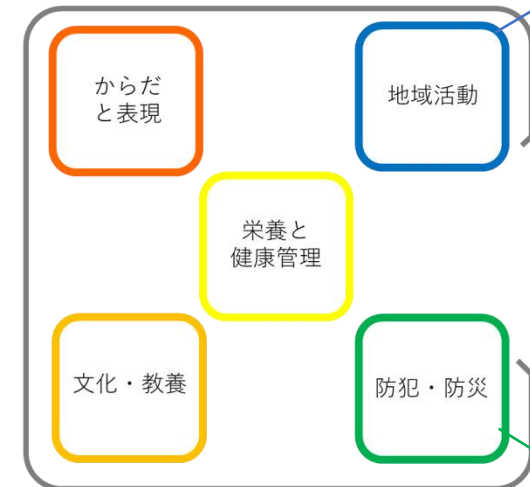


ボランティアスタッフのみ



OPEN講座

どなたでも対象



外部講師を招聘



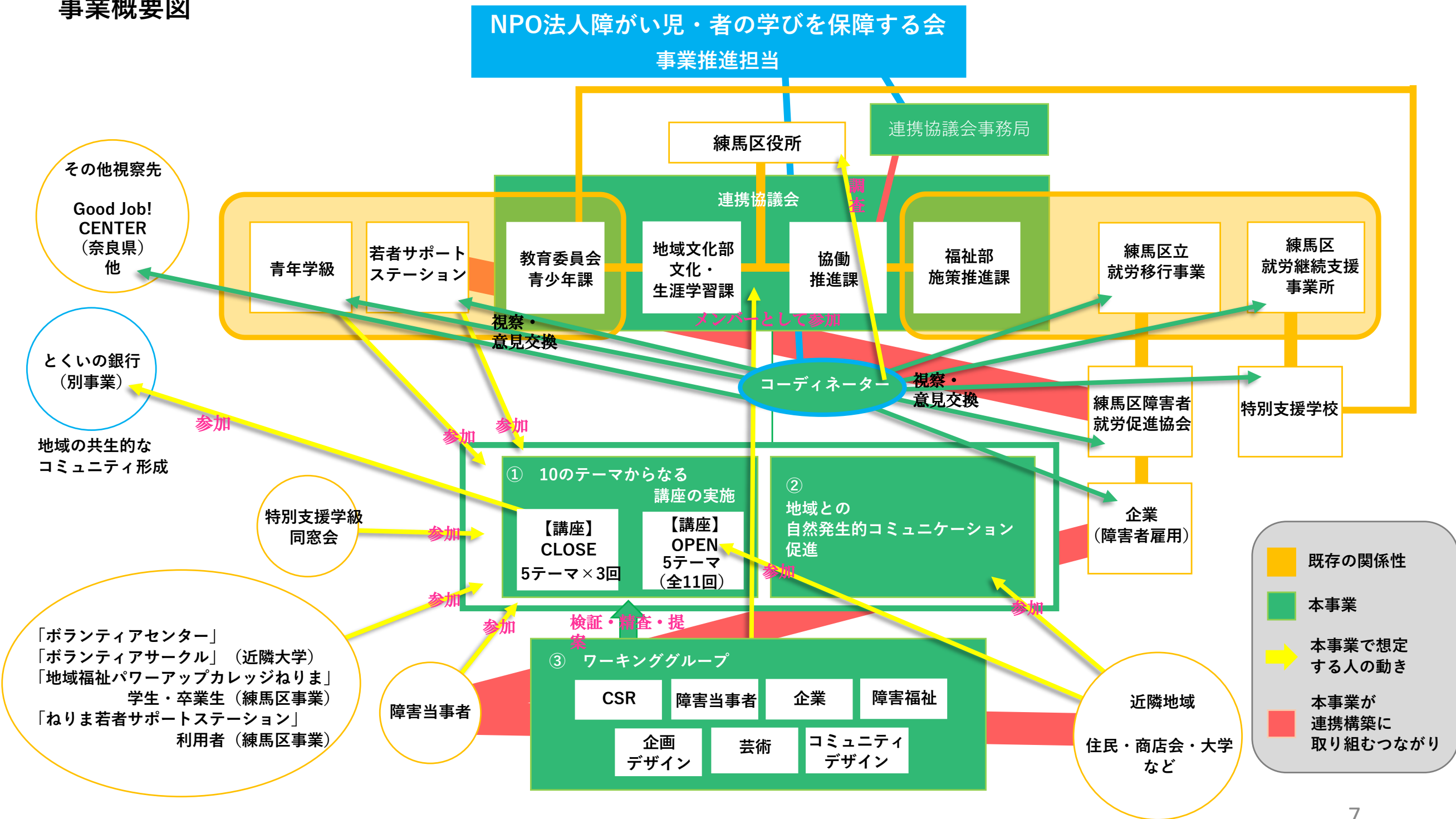
練馬区の既存学習講座を活用



当会による研究事業の概要図

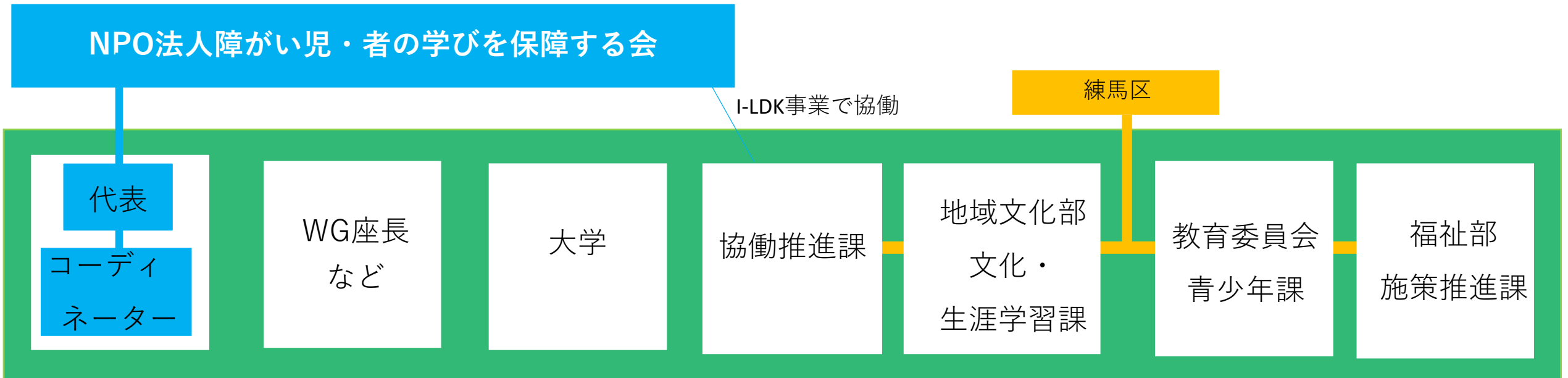
社会（地域・福祉・企業の連携システム）が支える、
 学校教育終了後から生涯にわたる継続的な学びの実践研究事業
 ～コミュニケーション経験を基盤とする生活・就労支援プログラムの構築～

事業概要図



連携協議会とワーキンググループの構成

連携協議会



ワーキンググループ



連携協議会の構成員

連携協議会



- ◎ 主催団体代表：大森 梓（NPO法人障がい児・者の学びを保障する会 代表理事）
- コーディネーター：栗林 満（同会理事／元特別支援学校教員・社会福祉士）
- 自治体：練馬区 地域文化部 協働推進課
文化・生涯学習課
教育委員会 青少年課
福祉部 障害者施策推進課
- 大学： 桜美林大学総合科学系准教授 小泉広子 氏
- ワーキンググループ座長：坂本 文武 氏（一般社団法人Medical Studio 代表理事）

連携協議会とワーキンググループの構成

ワーキンググループ



- ◎ 主催団体代表：大森 梓（NPO法人障がい児・者の学びを保障する会 代表理事）
- コーディネーター：栗林 満（同会理事／元特別支援学校教員・社会福祉士）
- ◎ 座長 CSR：坂本 文武氏（一般社団法人Medical Studio 代表理事）
- 当事者：参加方法検討中
- 企業：打診中
- 福祉：森口 弘美氏（一般社団法人たんぽぽの家 評議員）
- デザイン：田中 真宏氏（NPO法人ピープルデザイン研究所）
- 芸術：片岡 祐介氏（音楽家）
- コミュニティデザイン：鈴木 一郎太氏（株式会社 大と小ととレフ 代表取締役）

連携協議会とワーキンググループの役割

連携協議会

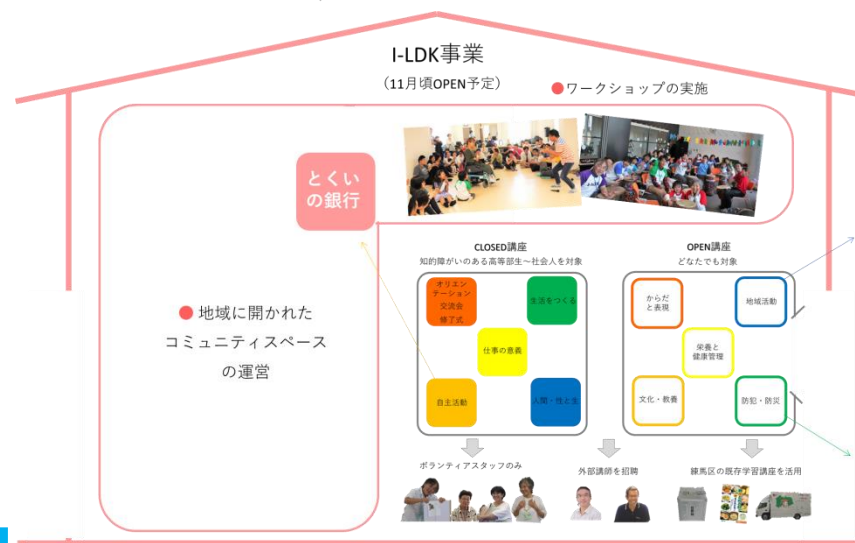


次年度

協議・検討・決定
 プログラムの開発
 実施体制・連携モデルの構築
 コーディネーター・ボランティアの活用方策の開発
 成果普及

提 案

反 映



各プログラム
 実施内容のまとめ

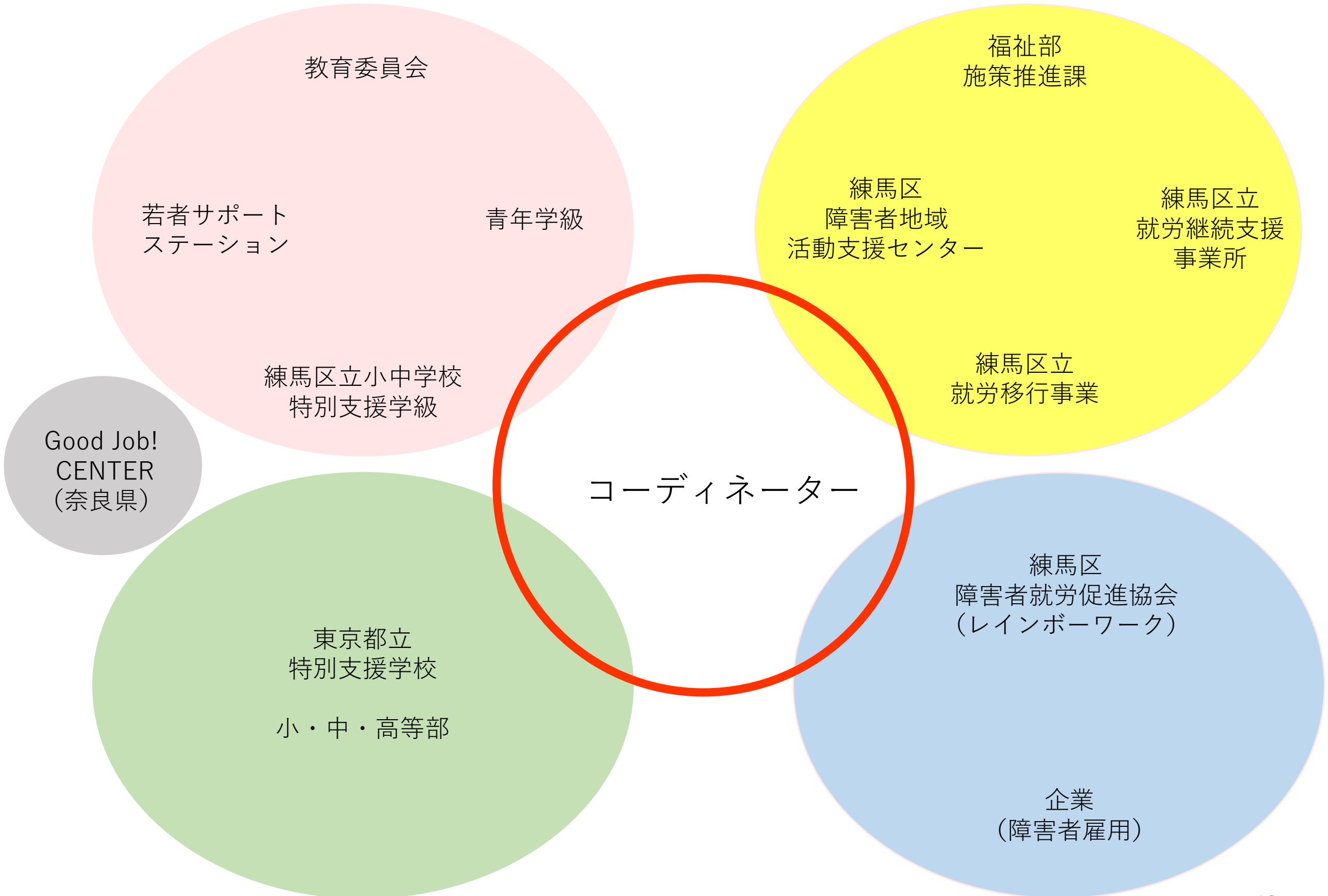
ワーキンググループ



報 告

検証
 プログラムの内容
 相関関係
 実施方法
 環境整備

コーディネーターの役割



さまざまな当事者 **感** を知る

8/18

オリエン
テーション

参加者：知的障がいのある方 5名（16～44歳）
練馬区職員・福祉施設職員・保護者・スタッフ

自己紹介



講座の説明



さまざまな当事者 **感**を知る

8/23.24.25

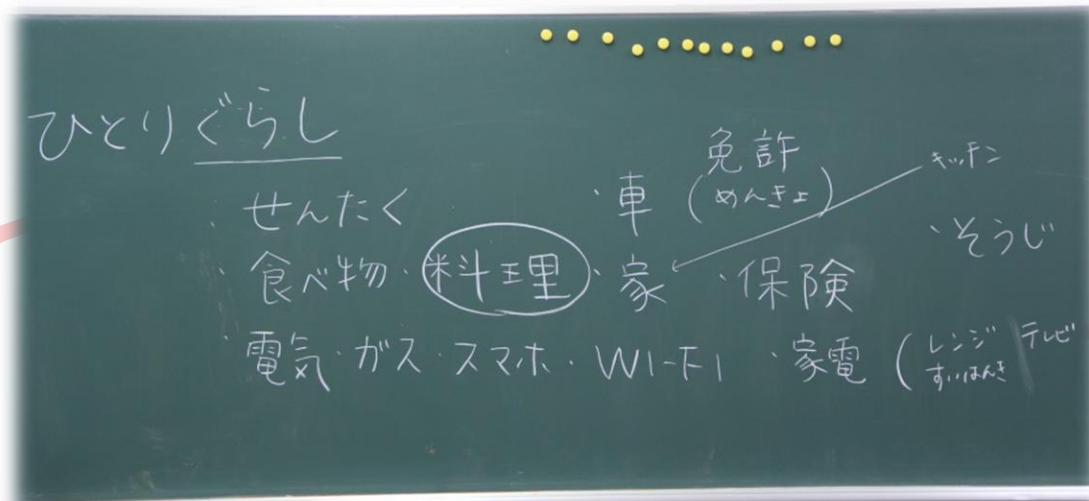
生活をつくる

①②③

参加者：知的障がいのある方 6名（18～19歳）
練馬区職員・スタッフ（ボランティア：大学生・福祉施設職員）

①「生活」ってなんだろう

（ディスカッション）



さまざまな当事者 **感**を知る

8/23.24.25

生活をつくる

①②③

参加者：知的障がいのある方 6名（18～19歳）
練馬区職員・スタッフ（ボランティア：大学生・福祉施設職員）

②「準備する」ってどういうこと？ （ディスカッションと実地調査）



<ul style="list-style-type: none"> ☆ロールケーキ☆ ・卵 149円 ・石砂糖 160円 ・薄力粉 173円 ・生クリーム 299円×2 ・牛乳 149円 ・無塩バター 250円 <p>合計1479円 ↓ +トッピング 税込1598円</p>	<ul style="list-style-type: none"> 味噌ラーメン ・ソース 796円 ・味玉 599円 ・コーン 148円 ・白ねぎ 298円 ・バター 250円 ・麺 70 895円 <p>合計2186円 税込2224円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ぎょうざ ・ひき肉 819円 ・ニラ 552円 ・ぎょうざの皮 376円 ・キャバツ 276円 ・にんにく 298円 ・しょうが 138円 <p>合計2655円 345円 -224 121円</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



8/23.24.25

生活をつくる

①②③

参加者：知的障がいのある方 6名（18～19歳）
練馬区職員・スタッフ（ボランティア：大学生・福祉施設職員）

③とにかくやってみよう！

（買物と調理）



さまざまな当事者



を知る

8/23.24.25

生活をつくる
①②③

参加者：知的障がいのある方 6名（18～19歳）
練馬区職員・スタッフ（ボランティア：大学生・福祉施設職員）

1日目



2日目



ある青年の変化

3日目



お母さん、
俺はこれからの講座
全部参加します！





9/8

ゆるゆる体操

参加者：知的障がいのある方 6名（18～24歳）
幼児・大学生・保護者・練馬区職員・スタッフ

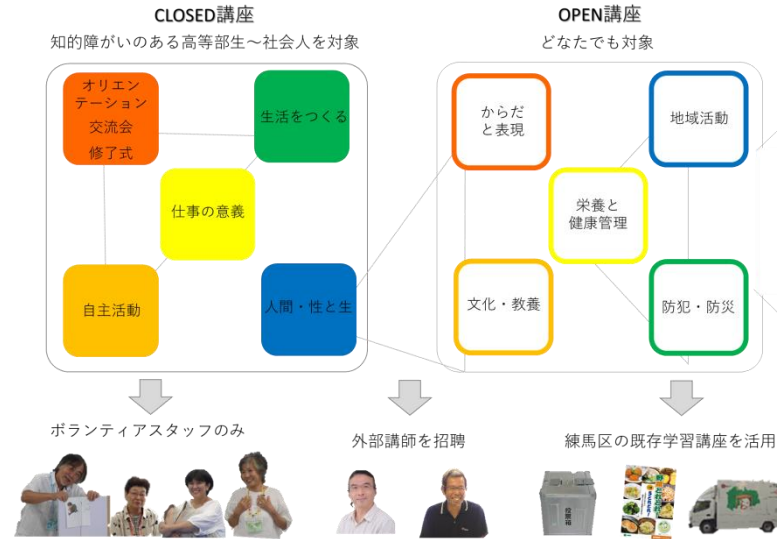


振り返り



「主体的に学ぶ」 そのために

さまざまな学びの機会



レディネス

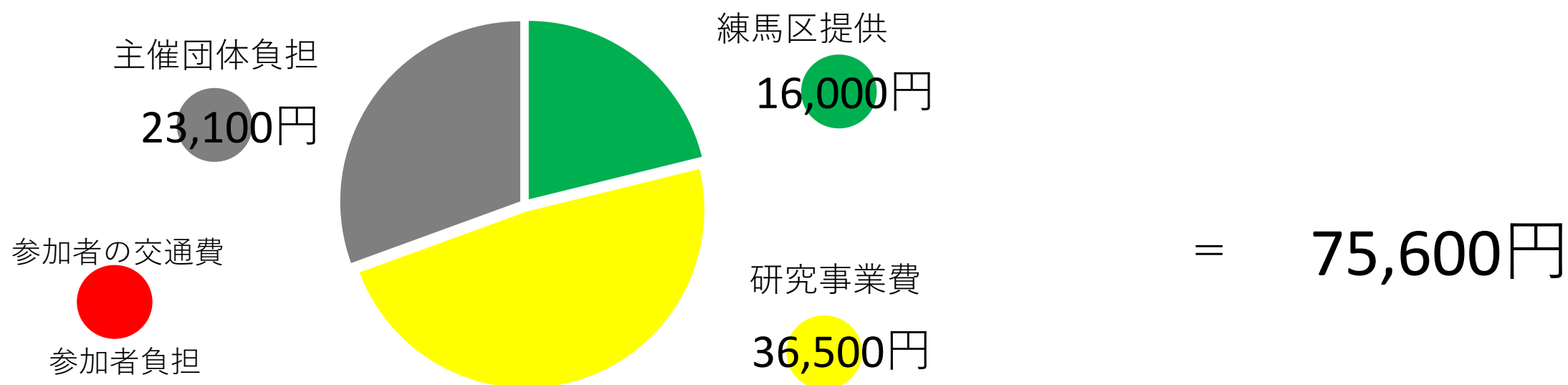
経済的バリアの除去

情報アクセシビリティ

- 当事者の学ぶ態度や姿勢をととのえる環境・関係性
当事者にとって安心できる場所
信頼できる仲間（スタッフを含む）の存在
 - ・ 失敗が許される場所
 - ・ 「わからない」と堂々と言える場所
 - ・ 自分のありのままが否定されず、認められている場所
- 経済的な理由により、学びたいという意欲が阻害されないための配慮・手立て
- 的確でわかりやすい情報案内のもとに、スムーズに内容を理解することができ、申込みから来場までに困難が生じないような機能を有する情報媒体。

OPEN講座「ゆるゆる体操」講座実施までの行程と経費

		準備・打ち合わせ		実施	振返り	総額
人	スタッフ4名 (時給1,000円/時 交通費500円/人)	6,000円 1時間	10,000円 2時間	18,000円 4時間	6,000円 1時間	40,000円 10時間
	外部講師1名 (講師料7,500円/時 交通費1,100円/都内一律)		1,100円 交通費のみ	15,000円 2時間		16,100円 3時間
会場	区立施設会議室 区立施設イベントコーナー	500円 1時間	1,000円 2時間	14,000円 5時間	500円 1時間	16,000円 9時間
消耗品	マット・写真紙等			3,000円	500円	3,500円

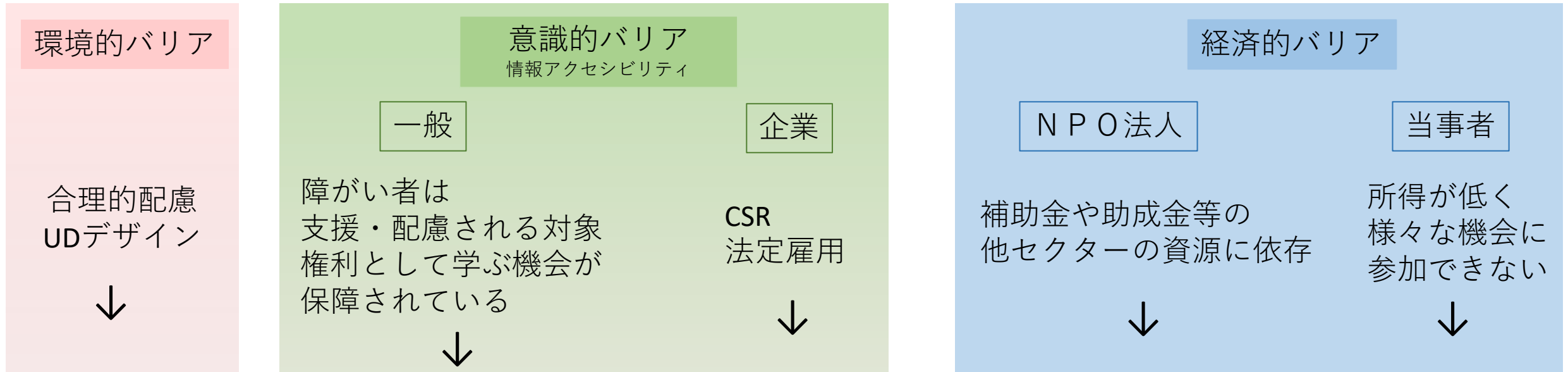


NPO法人は補助金や助成金等の他セクターの資源に頼らざるを得ない現状・・・
 所得の低い当事者にとっては参加料や交通費の支払いは負担が大きく参加を妨げる要因に・・・

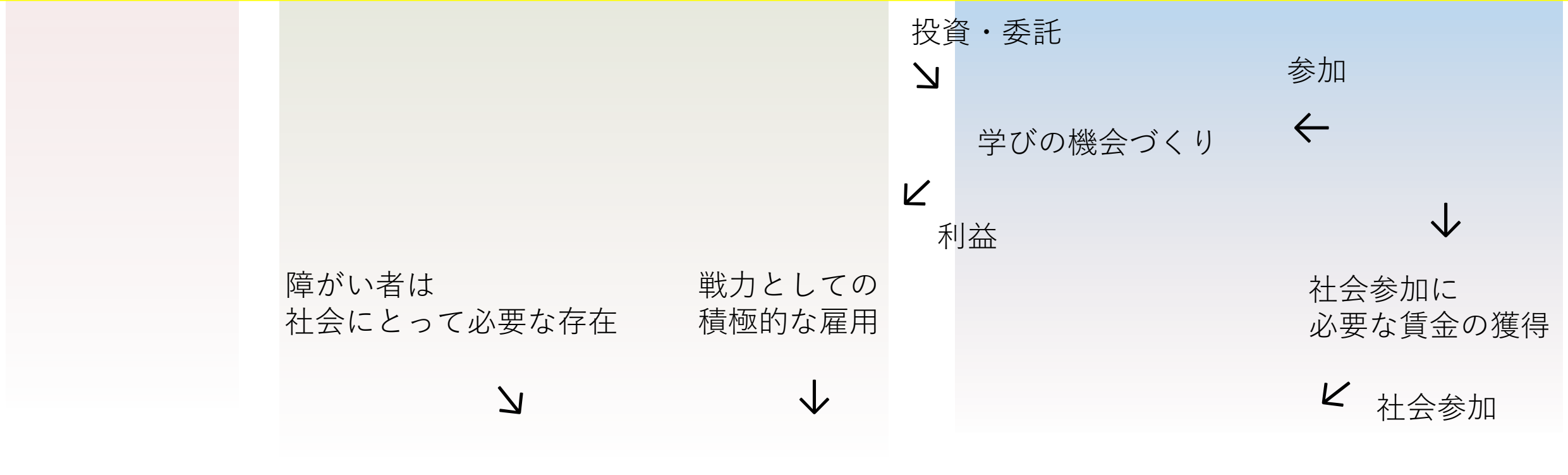
経済的にも
バリアが？

現状のバリアから考える共生社会の実現に向けたプロセス

現
状



実践研究事業を通じた知的障がい者との協働事業による社会的価値の創造



共生社会

※障がい者の安定・充実した生活・就労により結果として、
 ・納税による国の財源増
 ・福祉や医療費の削減

当事者との協働事業 はじめの一歩として

～情報アクセシビリティの向上にむけて～

チラシに書いてある
言葉がわからない

- 健康推進課って何？
- 名前にふりがなをふってほしい

→ 表現方法の検討

そのほか
見た目の印象・感想
など

- 明るい色がいい
- イラストより写真の方がわかりやすい

→ 表現方法の検討

まちの中で
チラシを見たことがない

前回のチラシ1500枚の配布先

- 練馬区内公共施設120か所にラック設置
(生涯学習センター・図書館・児童館・障害者施設等)
- 都立練馬特別支援学校・練馬区立小中学校特別支援学級 全生徒に配布

→ 配布先の開拓・配布方法の検討 / 情報発信媒体の検討

申込方法がわからない

今回の申込方法

- 電話
- QRコード → 申込サイト
- ホームページ
- メール

→ 申込方法の検討

ちなみに・・・

当事者ランキング：1位は **LINE!** 2位 メール 3位 電話 4位 QRコード

OPEN講座チラシ





ご清聴ありがとうございました



NPO法人
障がい児・者の
学びを保障する会

平成30年9月18日10:00-12:00
文部科学省東館15階特別会議室